花粉症 対策と最新治療法シンポジウム

～レーザー治療のアレルギー性鼻炎への効果は？～

小川耳鼻咽喉科院長
日本アレルギー学会評議員　小川　浩司氏

今年は花粉飛散の初観測が1月15日と早く、私の診療所にも、既に1月半ば頃から多くの花粉症の患者さんが来ています。

しかし、なぜ花粉症は起こるのでしょうか。

私たちの体には、外から侵入してきたウイルスや細菌などの異物や、がん細胞など体の中で発生した要らないものを排除しようとする免疫という防御システムが備わっています。ですから、免疫が弱いと感染症やがんに罹りやすくなる。ところが、逆に排除する力が強過ぎると、本来なら体にとって害のない花粉や埃にまで過敏に反応してしまいます。これがアレルギーであり、くしゃみや鼻水は花粉を外に出そうとする免疫反応なのです。空気中の細菌の90%以上が鼻の中で退治されています。それだけに、むやみに免疫力を弱めるわけにもいかないのが花粉症治療の難しさです。

それに花粉症の原因はスギ、ブタクサ）植物の花粉、ダニ・埃・ペットのフケ・カビも原因となります。検査すると全種類、陽性の人もいて、通年性のアレルギーに悩んでいる人も多い。

1970年代前半、アレルギー性鼻炎の原因調査でスギ花粉33%だったのが、近年では74%と激増しています。花粉症が増えている理由の一つは花粉が増えている事実があります。戦後、盛んに植林された杉と、もう、ほとんどの人はスギ花粉だけでなく、ヒノキ、イネ科（カモガヤ、ハルガヤ）やキク科（ヨモギ、ブタクサ）植物の花粉を洗い流そうと鼻水が充満し、ひどくなると、花粉を含む空気の侵入を拒もうとして鼻粘膜が腫れ、鼻づまりが起こります。つまり、くしゃみや鼻水は花粉症の90%以上が鼻の中で退治されています。それだけに、むやみに免疫力を弱めるわけにもいかないのが花粉症治療の難しさです。

それに花粉症の原因はスギ花粉だけでなく、ヒノキ、イネ科（カモガヤ、ハルガヤ）やキク科（ヨモギ、ブタクサ）植物の花粉、ダニ・埃・ペットのフケ・カビも原因となります。検査すると全種類、陽性の人もいて、通年性のアレルギーに悩んでいる人も多い。

1970年代前半、アレルギー性鼻炎の原因調査でスギ花粉33%だったのが、近年では74%と激増しています。

スギ花粉が飛び始める2月頃から花粉症患者は現れ始め、本格飛散が始まると、もう、ほとんどの人はけても花粉症状が出なかった人に、ストレスを与えると、7割の人が花粉症反応を起こします。

排気ガスの問題もあります。栃木県の日光杉で有名な地域で、山間部の人に花粉症は少なく、道路沿いの人に多かったと報告されています。

最近は眠気の少ない抗ヒスタミンも出ていますが、それでも人によっては眠くなります。そういう方や、ほかの病気で薬を飲んでいる方などは、鼻に直接噴霧する点鼻薬を使うといいでしょう。これらの薬は花粉症の症状を一時的に抑えているだけなので、途中で中断せず花粉飛散が少なくなる時期まで続ける必要があります。

薬を飲んでも鼻水がとまらないほど炎症がひどい場合は、手術が必要です。鼻の粘膜を電気で焼き切ったり、化学薬品で腐食させると、新しい粘膜が再生され、鼻通りも良くなり、薬も効くようになります。最近ではレーザーを使って鼻粘膜の表面を変化させるという治療も始まっています。ただし、こうした手術をして症状が楽になっても、治ったわけではないので、その後の治療を怠っていると、また発病します。

去年よりも花粉が多いとされる今春。早めの治療と治療後のケアを、ぜひ心がけてください。

●症状でる前に早めに治療を
●手術後もケアを心がけよう

おがわ・ひろし　昭和42年、慶應義塾大学医学部卒業。同大学院医学研究所修了。米国コネチカット州立大学・ミシガン大学留学。都立大久保病院耳鼻咽喉科医長、東海大学医学部講師、慶大医学部兼任講師（アレルギー外来担当）。北里研究所耳鼻咽喉科部長を経て、平成6年から小川耳鼻咽喉科を開業（院長）。日本性感染症学会評議員など。

慶應義塾大学医学部客員教授
大城クリニック院長　大城　俊夫氏

今や春先の一大国民病となった感さえある花粉症。いったん発症すれば自然に治ることはまずなく、完治も難しいのが現状です。花粉症の解明は今どこまで進み、果たして有効な対策はあるのでしょうか。また、最新の治療法として脚光を浴びているレーザー治療とはどのようなものでしょうか。1月26日、東京・大手町のサンケイプラザで「花粉症の対策と最新治療法シンポジウム」が開かれた。

おおしろ・としお　沖縄県生まれ。慶應義塾大学医学部卒業後、米国シンシナティ大学留学。慶大形成外科客員教授など。昭和50年大城クリニック開業（院長）。世界レーザー治療学会名誉会長、国際レーザー医学会および世界レーザー医学連合会事務局長。日本形成外科学会評議員。著書に「あ、レーザーで痛みが取れた」など。

私の専門は形成外科です。ところがレーザーを使って30年近く治療を続けているうちに、患者さんの方から治療目的以外にも効果が出たという報告を非常に多くいただき、レーザーの様々な効果がわかってきました。例えば、アザを治療された方の助聞神経痛が治ったり、肘の痛みを治療して頭痛と生理不順が治ったりなどいろいろありますが、その一つにアレルギー性鼻炎への効果もあります。

レーザーとはルビーの結晶や炭酸ガスなどを媒質に発生させる人工的な光です。単一の波長をもった単色光で、すべての光が拡散せずに同じ方向を向いていて、集光性に優れ、エネルギー密度が高いなどの特徴があります。このレーザー光を皮膚に当て、だんだんと強くしていくと、生体は熱を加えると白くなるような蛋白変性から、血液凝固、組織の乾燥、炭化という反応が出てきます。光を熱に変えて悪い部分を破壊するんですね。この反応（HLLT）では、生体は元に戻らないので、外科的治療に使います。

一方、熱を利用しない弱い光は、組織に深く入って細胞のみを瞬時に選択的に破壊。のちには健全な細胞が増殖して修復されます。

●1回10分で効果は2年も！
●レーザー治療には保険適用

アザ治療の場合、レーザーが波長によって特定の色素を利用します。アザの色、濃度などによって波長や光の強さなどを調整して当てると、周辺の正常な皮膚には影響を与えず、色素にしか反応しないという性質があります。このレーザー光を皮膚に当て、だんだんと強くしていくと、生体は熱を加えると白くなるような蛋白変性から、血液凝固、組織の乾燥、炭化という反応が出てきます。光を熱に変えて悪い部分を破壊するんですね。この反応（HLLT）では、生体はにしか反応しないという性質を利用します。アザの色、濃度などによって波長や光の強さなどを調整して～3年前に閉経した生理が当てると、周辺の正常な皮膚には影響を与えず、色素また始まったという方もいます。そうした効果から、平細胞のみを瞬時に選択して均39歳の難治性の不妊治療破壊。のちには健全な細胞でも20%以上の妊娠実績をが増殖して修復されます。痛みはほとんどありませんが白斑の患者さんに弱い光を効果が多様なレーザーは、当てることで色を入れることもできます。現在、形成外科、整形外科、

大学病院で足の切断を宣告された壊疽の患者さんが切らずに回復した例もあります。その方は大腿から下の血管がほとんどなくなり、足の指先の骨まで腐っていたのですが、月に1～2度の治療を約1年続けて足先まで血管が増えました。血行を改善させるだけでなく、新しい血管までつくるのです。

痛みをとる治療には、弱いレーザー光を使います。筋肉の緊張をほぐし、血行の改善、神経や自然治癒力を回復させることで痛みを取り除きます。中には腰痛症の治療をしていたら、2～3年前に閉経した生理が また始まったという方もいます。そうした効果から、平均39歳の難治性の不妊治療でも20%以上の妊娠実績をあげています。このように効果が多様なレーザーは、現在、形成外科、整形外科、婦人科、麻酔科、脳神経外科、皮膚科、リハビリテーション科など、様々な科で使われているのです。

そこで、いよいよアレルギー性鼻炎の登場です。弱いレーザーを当てると、鼻の通りがすぐ良くなりますが、これは一過性のもので長くて3日ぐらいしかもちません。耳鼻科では強いレーザーで粘膜を焼きはがす治療も行われていますが、効果が出るまでに時間がかかり、1カ月ぐらいは鼻汁が残ります。そこで考えたのが扇を白くする反応です。つまり、弱い光で花粉を受け取る下鼻甲介部分の粘膜を蛋白変性させ、花粉に対し反応しにくくさせるのです。全部焼くのではなく、直径2㎜の点を片側で20～40ずつ当てていきます。麻酔もしますので、人によって違いはありますが痛みはほとんどありません。治療時間は5～10分で終わります。早い人なら翌日から鼻の通りがよくなり、遅くとも1週間以内に鼻汁は止まります。

治療した花粉症患者さん約209人のうち、1回の治療で1年以上効果が続いている方が84%。2年以上という方が53%おります。よって、通年性のアレルギーの場合は数回治療が必要な方もいますが、原則、花粉症の治療は1回です。

アレルギーには鼻炎のほか、気管支ぜんそくやアトピー性皮膚炎などがありますが、レーザーで鼻炎を治療すると、ぜんそくや皮膚炎も軽くなることがあります。受験生には、思考力が低下する花粉症は大敵です。早めに治療する必要があります。ちなみに、花粉症のレーザー治療には保険が適用されることを付け加えておきます。

レーザー治療体験談

実際に花粉症でレーザー治療を受けた3人の方にご登場願い、治療の感想や経過などを、お話しいただきました。

《参加者》
・30代女性
・20代男性
・20代女性
・小川耳鼻咽喉科院長　小川浩司氏
・大城クリニック院長　大城俊夫氏
（司会）ラジオたんぱアナウンサー　大宮杜喜子氏

◇

ワンシーズン鼻スッキリ！

30代女性　去年の5月、レーザーで脱毛しに行ったのですが、通年性のアレルギー性鼻炎で鼻づまりがひどかったんですね。私の症状に気づいた主治医の先生からレーザーが効くことを聞き、その場で治療を受けました。すると、夜には鼻が通ってすっきり！　それまでは夜、眠るのも辛かったのですが、その日の夜からぐっすり眠れるようになりました。

大城　鼻粘膜の花粉を感知する受容体が、レーザーで焼かれたことで改善したと思われます。

小川　症状により、効果に個人差はあると思いますが、鼻づまりというのは鼻の粘膜が腫れたむくみの状態ですから、レーザーで血行が良くなったことで症状が緩和し、さらに、炎症の場合は血管が拡張しているので、血液凝固が起こって血管が収縮したと考えられます。

―今はどうですか？

30代女性　レーザー治療を受けるまでは、毎週耳鼻科に通院していたのが、8カ月間1回も行かなくて済んでいます。

20代男性　4～5年前から春先になると鼻水とくしゃみがひどく、仕事に支障をきたすほどでした。花粉症をレーザーで治療したという友人の勧めで半信半疑で治療を受けたのですが、1週間ぐらい鼻水が出続けた後、ぴたっと止まりました。それが1年以上前で、今も効果が続いています。

―副作用や嗅覚の不都合はありませんか？

20代男性　まったくありません。

大城　私の病院では、今までレーザーを使って約4万5000人の方々の様々な疾患を治療してきましたが、副作用はほとんど出ておりません。

20代男性　弟がハウスダストアレルギーなのですが…。

小川　アレルギーは遺伝性もありますからね。両親ともに何らかのアレルギーがある場合は子供の半分、片親なら3割が遺伝するという統計があります。また、過去にアトピー性皮膚炎や喘息に罹ったことがある人は、今は症状がなくても花粉症になる体質も持っているので気をつけてください。

20代女性　私は花粉症になって8年。市販薬やステロイド注射などいろいろな治療法を試したんですが、どれも続けているうちに効かなくなってきて、去年、レーザー治療を受けました。そうしたら1回の治療で、ぴたっと症状が止まっています。

小川　今、市販薬もいいのがたくさん出ています。ただ成分や配合比の違いで、Aの人に効いた薬がBには効かず、逆にBに効く薬がAには効かないこともある。漢方薬も同じで、全員に効くとは限らないが、合う人にはすごく効く。一番ご自分に合った薬を選んで、症状の軽いうちに飲めば、花粉症コントロールに役立ちます。一方、ステロイド注射は副作用が強いのでやめたほうがいい。

―ほかにどんな治療法がありますか？

小川　予防注射のように少しずつ体の中に花粉を注射して、花粉に対する反応を鈍らせる「減感作療法」というのがありますが、これは効果が出るのに年単位の時間がかかる。神経を麻痺させる「星状神経節ブロック」は、麻酔が切れると元に戻るため、毎日受けなければなりません。

20代女性　今、目が少しかゆいだけで、花粉症の症状は出てないんですが、早めに治療を受けた方がいいのでしょうか。

大城　目のかゆみなら、レーザーで5～6秒でとれますよ。

小川　花粉飛散が始まって少しでも目がかゆい、鼻がムズムズするようなら、耳鼻科でもレーザーでも早めに治療を受けることです。

1回の治療でピタッと止まった！

企画・制作　産経新聞生活情報センター